



第82号 (年4回発行) 編集発行 弘前学院大学 学員会 弘報 印刷所 (有)小野印刷所

退任のご挨拶 歴史と由緒ある大学に導かれて

学長 吉岡 利忠



2004年(平成16年)4月1日、140年近くの歴史があり由緒ある弘前学院大学に学長として青森県立保健大学の副学長から移籍しました。その前年、学校法人弘前学院阿保邦弘理事長が院長と当時の藤田月衛事務局長が青森県立保健大学の副学長室にお見えになり、弘前学院大学に東北で私立大学では最初の看護学部を立ち上げた、との意向をお聞きしました。丁度、私は青森

吉岡利忠弘前学院大学学長の退任に寄せて

学校法人弘前学院 理事長・学院長 阿保 邦弘



「田代町と坂本町の縁」

弘前学院大学に看護学部を設置したのは青森県における看護師の需給関係がバランスを欠いており、看護学部の設置に関する要請の高まりも受け、青森県医師

県内の看護師養成施設と看護師の医療施設などにおける需給見通しに関する資料を青森県健康福祉部と協力し作成していたため、その資料が本看護学部創立に役立つようです。また、聖マリアンナ医科大学主任教授から青森県で初めての県立大学である青森県立保健大学に移った経緯も、やはり看護学部立ち上げがきっかけでした。

私の出身大学の東京慈恵会医科大学の前身である有志共立病院の中に東京慈恵会医科大学当時の1885年10月に日本で最初の看護婦養成所が設立され、近代女子教育や社会事業などの奨励に尽力した明治天皇の皇后で



その年になると皇居から頂いたカキツバタなどの高貴な花々が飾られておりました。今年で創立140年を迎える東京慈恵会医科大学には「病気を診ずして病人を診よ」という高木兼寛学祖が唱えた建学の精神がありました。高校生だった私は全ての私立大学には建学の精神があることを恥ずかしいことですが知りませんでした。病気を診ずして病人を診よには何か心を引き寄せるものを感じたことも受験した理由でした。

これまでの経緯から私は看護教育を含め保健医療福祉教育などの分野には強い想いがありました。また、主任教授として赴任した前任地の聖マリアンナ医科大学はカソリック系の教育機関でありプロテスタント系の弘前学院と同じくキリスト教主義教育を真髄としており、ここに奉職できたことはこの上もなく嬉しいことでもあります。

現在、「弘学時報」への原稿を執筆している時点では2か月を残すだけとなりました。新設の一号館の学長室は機能的かつシンプルなお設計であり長く広い2つの机と椅子のお蔭でそれこそ無駄のない会議などを進めることができました。座って沈むようなソファでは世間話に花が咲くだけでいい。次期学長予定者もこの学長室には満足する環境

だと思えます。学長室の広いデスクで仕事をしながら真正面に飾ってあるいくつかの国内外の教育機関との姉妹校提携書(複製を見ながら読むことは、提携の結結はしたものの締結文に書かれてあるいくつかの項目のうち、学生間の交流を盛んにすることや同時に教職員間でも行き来が望まれるところでもあります。目まぐるしく変動するグローバル社会にあつては学生はじめ教職員には重要なことでありましょう。

1969年(昭和44年)東京慈恵会医科大学助手・講師、1978年(昭和51年)東海大学医学助教授、1981年(昭和56年)ペンシルバニア大学医学部助教授、1988年(昭和63年)聖マリアンナ医科大学教授、1999年(平成11年)青森県立保健大学副学長、2004年(平成16年)弘前学院大学学長と高等教育機関における52年間という一生涯半分以上の長きに渡って教育研究、運営に携わってきました。有意義な時間でありました。ここで区切りを付けます。誠にありがたいことですが2004年(平成16年)には青森県

会を中心とする「青森県看護職員養成会」が打ち出している看護養成施設新設要請に積極的にこたえようとしたものである。わが看護学部は2005(平成17)年1月28日認可され、順調に進捗を見た。

副学長(以後県立保健大という)吉岡利忠先生の情報が寄せられ、県立保健大の環境は、異動可能な状態と判明した。直ちに、県立保健大学長に会員を申し入れ割愛をお願いしたところ、当方の趣旨が理解され、めでたく学長招聘が成就した。大学学部新設に際し、必要な教員をそろえて文部科学省の認可を受ける。教員審査のための個人調書から吉岡学長の設置認可申請時点における履歴等を紹介する。

東京慈恵会医科大学卒業 第46回医師国家試験合格 東京慈恵会医科大学より医学博士号取得 乙第536号 米国ペンシルバニア大学医学部に留学(3年間) 聖マリアンナ医科大学客員教授

弘前学院大学 学長(17年間) 学会及び社会における活動 この項目については、学部開設以降のものも含んで、68項目に及んでおり、幅広い活動を展開された。

田代町の東に道路を挟んで坂本町がある。坂本町には弘前学院聖愛中学校聖愛高等学校や、弘前学院短期大学があった。弘前学院の校舎は昭和4年に建設されたもので、丁寧に選定された材木を使い、コロートの壁と、白い窓枠で統一されており、下土手町のデパートから見るとエキゾチックな雰囲気浸ることができたといわれたものである。この校舎のある土地は、西に向かって緩やかに傾斜しており、校舎の2階からは津軽

平野に鎮座する四季折々の岩木山を見ることが出来る。弘前学院校舎と吉岡学長のお宅は隣組の近さにあつた。先生は弘前学院の校庭はこの界限の子供達の遊び場であつたと回想している。また長い間キリスト教主義の学校を見てきたことから、礼拝・讃美歌・聖書について、よくなじんでいて弘前学院に赴任してからあまり苦労することなかったようである。

吉岡家は先生の御祖父さまが日清日露戦争において武勲があり、大佐の階級を与えられ、弘前立保健大学から名誉教授(第1号)を頂きました。この度は関係者のお許しがいただければ弘前学院大学名誉教授(第2号)として、その称号に恥じることにない残りの人生を歩みたいと存じます。還暦を過ぎ、古希を通り越し、昨年には喜寿、一喜という草書体が七を3つ重ねた形になり七十七と読めることに由来しており、高貴な色の紫が喜寿のお祝いの色だとありました。

「弘学時報」は年4回の発行が継続しております。学内のさまざまイベントを学内外に広報するうえで「弘学時報」の役割は重要なものです。OB、OGのみならず楽しみにしている方々が少なくないようです。今回の紙面は広報委員会の意向で17年間の研究・教育社会貢献活動について記載し、また私的な事柄もご容赦頂いており厚くお礼を申し上げます。2ページ3ページに続きます。最後に、私のなかで17年間という最も長い教員生活を全うできましたことに対して、皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございます。 God Bless You.

【17年間の研究活動について】

日本学術振興会の事業である科学研究費助成事業(科研費)の一覧があります(表)。弘前学院大学へ奉職する以前からの科研費を獲得していますが、弘前学院大学教員として代表研究者となった研究は5本あり補助金総額では107,960,000円、前任地では4本で総額11,200,000円でした。これらの他に前任地を含めた民間・公的機関からの助成金総額は40,670,000円ですが、弘前学院大学に赴任してからは1,000,000円でした。一億円以上の助成金を交付されたことは弘前学院大学に所属していることや、これまで一緒に研究してきた多くの共同研究者があつてこそ成り得たものです。大学教員にあつてはやはり自身の研究費は自身で得ようとする心意が必要なこととす。要するに人からの評価があつてこそ獲得できるものでしょう。

弘前学院大学学長就任時より科学研究費助成金が研究代表者として交付された研究課題一覧

Table with 4 columns: 研究課題名, 研究種目, 研究期間, 配分総額. Lists research projects funded by grants from 2003 to 2019, totaling 107,960,000 yen.

研究内容のキーワードとして、廃用性筋萎縮、骨格筋可塑性、骨格筋機能、骨格筋トレーニング、運動生理学、体力医学、骨格筋萎縮、サルコペニア、健康維持・増進、宇宙医学、スポーツ医学など多岐に渡る分野をあげることができます。大学在学中から人体の形態や機能に興味があり、特に体重の5割以上を占める器官、臓器は骨格筋のみであるし、何せ可塑性に富む器官であることからそのミクロ、マクロの形態から機能に対しては興味を沸くものでした。可塑性とは適切な(運動)刺激を与えると筋肥大、筋収縮機能アップなどの性質を獲得できるし、不動、廃用、加齢などの状況が続くと見るとみるうちに形態や機能が落ちてくることです。

極めて基礎的、細胞レベルなことではありますが、重要な研究結果として筋収縮とカルシウムイオンの関係をあげることができます。運動神経からの刺激によって筋細胞内小器官である筋小胞体からカルシウムイオンが放出され筋収縮が惹起されますが(興奮収縮連関、どの程度のカルシウムイオンが遊離されるかをきちんと定量化した研究結果です。そのことが本学における研究の基盤となり、ここにあげた表の研究が行われました。これらの研究の詳細は省きますが、その後骨格筋と同じく筋組織である心筋機能、肺機能からみた筋肉トレーニング、そして人として最も大切な健康維持・増進との関わり合いについて研究会が進められてきました。関係委員会を設置して多くの会合や発表会などを催し現在に至っております。

また、2012年(平成24年)4月より弘前市医師会理事として現在まで学術・生涯教育委員会スポーツ医学委員会として弘前市市民に対してさまざまなジャンルの講師を招聘しての講演会は一般市民を対象としたもの、専門家を対象とした講演を開き、医師会内外での学術講演、研究会開催などを計画し、スポーツ関連ではアプルマラソン、ツデーマーチ各種競技大会へのスポーツドクターの派遣をしておりまし。全国的な学術学会を弘前市で2回ほど開催し、本学の皆さまのご協力を得ましたことに感謝いたしております。

青森県六ヶ所村尾駁(おぶち)に環境科学技術研究所があり放射線の環境への影響や人体への影響に関する調査研究を行っている大規模な施設があります。私が宇宙医学や環境医学の研究を専門に行っているという事で共同研究の話が出ました。たとえば原子炉などから放射線が漏れた場合、その原子炉自体を取り囲んでしまふ、あるいは被爆から防御するよう施設を設置する、すなわち閉鎖してしまうという考えがあります。閉鎖空間・環境を想定してその中で居住するために生態系、生物系への影響を研究することは重要です。外界から分離された閉鎖環境は、いわゆるミニ地球と称され、将来、月や火星(このような施設を建設する場合には閉鎖環境における研究は必要不可欠であるし、宇宙医学・環境医学分野のノウハウが必要になります。閉鎖された環境で空気循環、植物や動物を育てそれらを食しヒトの排泄物の再利用なども導入するという壮大な実験です。米国や欧州でもミニ地球の実験を進めていきましたが良い結果は得られなかつたようです。ミニ地球の中で二人の人間(アストロノーツと称した)が住み込み日常生活を営みながら動物を育てるというシナリオで、私はテレビ回線を使い彼らの毎日の健康管理を進めるということにも協力しました。全て何事もなく実験は終了しました。しかし、科学技術庁からの資金援助も減額されたために残念ながらこの研究の継続はできませんでしたが、国際会議の開催や質の高い学術雑誌に数編の論文が公表されました。

その後、食物中微量放射線の人体への影響(内部被曝など)や消長を見る研究に代わり、食品に標識した炭素13(天然に存在する炭素の安定同位体)を指標として三大栄養素の動態を分析する研究に協力しました。この研究もアメリカの有名専門誌に掲載され、将来、さまざまなイベントに活用されるものと期待しております。今後は病気などによる自身の行動がままならない人たち、こころの悩んでいる人たち、あるいは適切な運動トレーニングが必要な人々を対象として可能な限り何らかのお手伝いができないかを考えております。

【17年間の教育活動について】

医学教育については医学教育学会にその当時加入しており、しかも数週間にわたる富士山麓にある教育センターで合宿し、時代を追って確立された医学教育方法や適切な国家試験問題作成法など医学教育に特化した内容を叩き込まれました(富士医学教育研究会)。当然のことですが問題解決方法が根幹をなすものであり、それは文系、理系に限らず必要なことであり、本学に奉職してからも教壇から一歩も動かずにあるいは教壇の椅子に座して講義をしたことはありません。教室内を移動しながら学生と同じ目線で質問対応・返答を吟味し進めてまいりました。いわゆる能動的な授業であります。受動的な授業は学生のためにはならないという心意で進めていきます。受動的とは教育者が教科書をもとに授業が行われ、学習者はそれを聞いているだけのことが多いと思われ、いわゆる一方通行の講義です。

本学の学生のほとんどは青森県内や近郊から通学しております。近年の新型コロナウイルス感染症の影響で首都圏の多くの教育機関ではオンラインによる授業が主体になっていますが、医師会からの情報を受け感染状況や感染防止を講じて本学では5月の連休明けから対面授業を進めております。もちろん状況によってはオンライン授業も必要だと思えます。オンライン授業では知識を教えることは可能でしょう。対面授業では知識の他に知恵を得ることができると私は考えており、知恵こそ社会に出

た時に有意義な態度、姿勢でありましよう。そしてさまざまなデータや情報などを提供して効果的に組み合わせるといふ構築方法と活用方法を持つてこそ新発見が得られます。そのような学生こそ社会に必要な人材であり活躍することができるとは思いません。本来、講義、授業は能動的なものでなければならず、その場の雰囲気、環境も絡まり、感覚器官としての5感すなわち視覚、聴覚が主となると思われますが、嗅覚、味覚、体性感覚なども刺激され、知恵、知恵として残るものと思えます。いわゆる双方向授業であり、私の授業は常にそのようなことを考え進めております。ですから講義時間は学習者の状況を感じて90分に満たない場合もあり、またシラバス通りの授業内容にならないこともありますが、出席も取っていません。学習者の目標を達成するために教育者はその方略を考えそして評価も加えて進められます。目標は認知領域(知識)、情意領域(態度・習慣)、精神運動領域(技能)などです。

本学では3学部全ての授業を担当しました。最も多いのは社会福祉学部の授業でした。また、新しい講義科目も設定しました。こころと疲労、老化と生体、コミュニケーションとナラティブなどの講義は社会に出て必要な知識であり興味あるものと思われます。この複雑で多様な性に富んだ社会では教科書では学べない内容です。担当科目をあげると、文学部ではオムニバス形式も含め、地域研究B、キャリアデザインD、生命の科学B、社会福祉学部では社会福祉学研究、こころと疲労、コミュニケーションとナラティブ、社会福祉学特講II、精神医学A、精神保健学A、精神保健学B、老化と生体、看護学部では医療概論、社会福祉学研究科では障害者福祉持

【17年間の社会貢献活動について】

学長に就任した当時、「弘学時報」という学内新聞は不定期に発行されていきました。年に4回定時発行に漙ぎつたことは嬉しいことの一つであります。大学は閉鎖的であるとよく言われます。新聞は大学から学内外に発信する手段としては必要なこととす。入学式卒業式の式辞もこの新聞に2回掲載し、残りの2回発行にも学長としてその時折の記事を書きました。記事は大学キャンパスにいながらも転がっているし、そしてまた将来大学の歴史を紐解く資料にもなるし、これからの大学の歴史を紡ぐためにも必要なことであると思っております。この新聞は弘前学院大学卒業生で組織する校友会の全国の支部会に配布され、会員は母校の情報を心待ちにしていると聞いております。

①弘学時報

弘前学院大学は弘南鉄道大鰐線の中央弘前駅から二つ目の西弘前駅(現弘前学院大前)から歩いて三分というところにあります。東京で東海大学医学部まで通勤していたときにはその沿線に大学名が付いた駅がいくつもあり、東海大学前もそうでした。以前は大根(おおね)という駅名であり、駅名を東海大学前に改称しようとしたとき住民の理解を得るためにここに大根駅があつたという石碑を建てることが納得してもらつたといます。そこで、西弘前駅の駅名を弘前

②弘前学院大前駅

弘前学院大学の教職員は90名位。3学部があるがスタッフ同士の行き来がなんと少なくないような気がしておりました。そこで全教職員が集まることのできる懇親会のような集まりを考えました。以前はこのような集まりがありましたが、新しく立ち上げた会合の名称は「しろがね会」に決まりました。この名称は校歌の一節から借用したものであります。しろがね会は、教職員の縦と横のつながりを大切にする福利厚生事業の一つです。3月は送別会、4月には歓迎会ということで開催し、これまでに約30回の開催、初めのうちには賛同して頂けない教員もおり、月額千円の会費ですがその徴収にも苦労した覚えがあります。毎回のしろがね会には弘前学院本部から阿保邦弘理事長および長内弘光事務局長、藤田月衛前事務局長をお呼びし、また校友会会長にも参加して頂いております。東日本大震災の2010年度と2020年度(令和2年度)は新型コロナウイルス対応で残念ながら開催を見送ることになってしまいました。④ヒロガク教養講話 3学部の全学生が一堂に集

### 弘前学院大が「教養講話」

弘前学院大学は、2021年2月18日(木)、学生ホールにて「弘前学院大が「教養講話」」を開催しました。この講話は、2020年11月22日に本学の講師として来賓された、元東京大学学長・長谷川裕司氏によるもので、長谷川氏は「教養講話」として、大学で何を学んでほしいか、という問いに答えてくれました。

### 学習意欲向上狙う

「学習意欲向上狙う」として、学生部が中心となり、各学部・学部に呼びかけ、学生が主体的に学ぶ機会を創出する取り組みを進めています。

協定を締結しました。(写真 大規模校である青山学院大学は首都圏、地方を問わず受験生には人気の大学。今後、両大学間で学術研究の交流に向けて相互に連携・協力していくことになり、本学のスタッフや学生にとり極めて有意義な提携であると思います。この経緯については、青山学院と弘前学院は同じくメソジスト系キリスト教主義を背景にした高等教育機関であることや弘前市出身の本学の創立者である本多庸一先生(青山学院第2代院長、阿部義宗先生(同6代院長、笹森順造先生(同7代院長)がそれぞれ青山学院の院長を務めていたという経緯があります。さらに、3人とも弘前学院の院長、理事長を務めていた関係から何度か青山学院を訪問し今回の協定の締結に至ったわけです。この年の11月22日に本学の礼拝堂で連携協定シンポジウム「若者の地域おこし」が開催されました。

また、テキストは本委員会からのホームページからもダウンロードできます。昨今、厳しい経済情勢の中この事業に賛同する企業からの寄付でこの事業が継続でき今日に至っております。この委員会の検定選考委員長を2014年(平成26年)から受けており、これまでに2,600名の方々に受検して頂き、受検合格者には委員長名で認定証を発行しております。

最後に青森県立保健大学副学長から弘前学院大学学長に就任することができたのは学校法人弘前学院理事長・院長の阿保邦弘先生のお蔭であり、しかも17年という長きにわたって学長職を務めあげることができ心より感謝しております。ここには弘前学院大学学長時代の内容が多く掲載されており、弘前学院は古い歴史を持ち、そして弘前学院大学は全国で700以上ある私立大学の一つであります。地方の私立大学であるがゆえ解決しなければならない問題が山積しております。しかし、その地方で信頼される教育機関であれば道は開かれるであろうし、これからは学外からその様子を拝見し、学外からエールを送ることにあります。



長就任時には本学とアメリカのシエンダー大学、ノースカロライナ大学と提携しております。私はウイスコンシン州にある州立ウイスコンシン大学と正式に提携するために渡米し、2005年(平成17年)4月11日に協定が結ばれ、地元新聞などで報道されました。ウイスコンシン大学の学生数はおよそ2万人程(本学は800名位)。ノーベル賞受賞者の教員もいる有名大学であります。その後、本学から留学生が行き、ウイスコンシン大学からは語学研修生が訪問するようになり、現在、韓国の釜山外国語大学、ソウル神学大学、釜山科学技術大学、培花女子大学、安養大学、中国の上海華理国際教育センター、上海外国語大学留学センターと提携しております。国際交流は歴史のある大学として是非とも盛んにしなければならぬでしょう。

⑦青森県食育検定委員会  
青森県は森林、山岳、平野と自然豊かな県であり三方海に囲まれ、海の幸、山の幸、川の幸など恵みを受けています。さらに米、野菜、果樹、生花類、畜産など農林畜水産業が盛んな県です。このような恵まれた環境で暮らされる県民は、「食」に対する意識を高めるとともに「食」への感謝や理解と正しい情報が必要です。和洋中の料理専門家が青森県の豊富なバラエティーに富む食材を十分に活かして作る料理は度々メディアにも登場するし、特に青森県の食文化から「食」に関する理解を深めるために「あおもり食育検定」を開始しました。あおもり食育検定委員会を組織し、毎年新しいデータを加えた公式テキスト(1300余りのページ数)を作成し、検定を受ける受験者には無償で配布しております。県内外の教育機関、図書館などにも配布しております。

## 吉岡学長退任に当たって 初対面の思い出

社会福祉学部長 石田 和男

私がこの大学に来て早7年になります。4月の歓迎会の席で吉岡学長のお隣りに座りました。真正面には阿保理事長が座つてらっしゃいました。緊張しておどおどしていると隣の吉岡学長が「石田先生はこれまで演劇をやつてこられたか?うちの学校で何かやってみませんか」というので、私も「まあいいですけど、何を」と返すと、吉岡学長「シェークスピアの『ロミオとジュリエット』などはどうですか」とストレートに提案が返ってきました。私が「はい」と答えると、学長はすぐ川浪先生をお呼びになり、先生に「ロミオとジュリエット」の公演を年内にやらせないか」と提案なさったのです。

実は演劇関係者からすると、以上ある私立大学の一つであります。地方の私立大学であるがゆえ解決しなければならない問題が山積しております。しかし、その地方で信頼される教育機関であれば道は開かれるであろうし、これからは学外からその様子を拝見し、学外からエールを送ることにあります。

## 吉岡学長への贈る言葉

宗教主任 楊 尚眞

吉岡利忠学長先生のご退任と前途において神の豊かな祝福をお祈り致します。

吉岡先生は、本学で17年間学長として奉職された中で大学運営と教育にご尽力されました。私が2010年度に本学に着任する前に、初めてお会いしたのが教員採用面接の時でありました。学長はとても温厚で謙虚なお方であるという印象をもちました。その印象は今日に至るまで変わりありません。

私が宗教主任・宗教主長という役職であることから、学長に頻繁な報告や連絡をする立場であるので身近におられた存在でありました。学長との特別な思い出は、韓国の大学と提携する際、案内と通訳をするためにお供させて頂きました。本学は六つの韓国の大

## 吉岡学長退任にあたって

大学事務長 高松 彰

一個人として、吉岡学長先生(以降、「学長」という)について述べる。

現在、世の中はコロナ一色に染められているが、本学はコロナ対策を講じて対面授業を実施している。これが出る大きな要素の一つは、学長が医師としてコロナを熟知し、それに応じた感染防止対応をできる知識と能力・判断力、実践力を持ち合わせているためである。学生が平常どおりの講義が受けられることに対して学長に感謝したい。

さて、学長は、本学通算17年と長きに亘って、学長職を務め、本学の教育研究発展に大きな貢献をしてきた。中でも要職にありながら多数の講座を受け持ち、学生目線で常にやさしく語り掛ける語り口は、学生の心を驚かすに、感銘を受けた学生はあまたいると思うのは私一人だけでしょうか。

また、学長は、常に学長室の下アールをオープンにし、いつでも気軽に学生・教職員の相談に応じる心をもたれ、聖書も読まれ、大学礼拝にも毎回出席され、礼拝を大事にしておられる姿に感銘を覚えました。ご退任されても、キリスト教の学びを続けられ、何よりも神を信頼する生活を営んで行くことを切にお祈り致します。

学長は日本宇宙航空環境医学会の理事を歴任された。宇宙における運動医学分野の学者でもありますが、世界において宇宙と関わる専門家の中で神の存在を信じる人は顕著に多いと言われています。1971年、米国航空宇宙局から発射されたアポロ15号の機載士ジェームズ・アールウィンは、「月の上に両足で降り立つ姿勢を取つており、そのアットホームな雰囲気は他大学には見られない光景であり、これも学長がなせる業である。

一方、研究者としては、日本運動生理学会会長、日本体育学会名誉会員、日本体力医学学会理事、日本宇宙航空環境医学会理事等を歴任し多数の学術論文・著書を発表し、国内外にその名声が轟く偉大な学者でもある。

学長職にある人は一般的に堅物で近寄りづらい人物をイメージしますが、学長は全く異なり誰分け隔てなく気さくに話を聞してくれる人物である。事務方の一員として、学長とこれまで仕事でできたことは、自分の宝であり、改めて学長の心遣いに感謝したい。

最後になりますが、学長が本学に残されたこれまでの数々の教育研究成果は、必ずや次の若い世代に引き継がれ、本学が東北の大学の雄として名実ともに全国を代表する大学になることを学長に約束して筆を置きたい。

それから、果てしなく広がるあの大きな宇宙が、たった一つの秩序の中に存在しているのを見て、神さまが生きておられることを確信しました」と言いました。

学長は、本学に着任される前からキリスト教の影響を受けられてきたが、本学に着任されてから今日に至るまで、神さまが学長と共にいてくださり、多くの貴重な働きを成すことができ、本学の発展に貢献された学長の足跡をいつまでも大事にし、学長のこれらの人生と本学の発展の上に神さまの大きな恵みが賜りますことを切にお祈り致します。

また、テキストは本委員会からのホームページからもダウンロードできます。昨今、厳しい経済情勢の中この事業に賛同する企業からの寄付でこの事業が継続でき今日に至っております。この委員会の検定選考委員長を2014年(平成26年)から受けており、これまでに2,600名の方々に受検して頂き、受検合格者には委員長名で認定証を発行しております。

最後に青森県立保健大学副学長から弘前学院大学学長に就任することができたのは学校法人弘前学院理事長・院長の阿保邦弘先生のお蔭であり、しかも17年という長きにわたって学長職を務めあげることができ心より感謝しております。ここには弘前学院大学学長時代の内容が多く掲載されており、弘前学院は古い歴史を持ち、そして弘前学院大学は全国で700以上ある私立大学の一つであります。地方の私立大学であるがゆえ解決しなければならない問題が山積しております。しかし、その地方で信頼される教育機関であれば道は開かれるであろうし、これからは学外からその様子を拝見し、学外からエールを送ることにあります。

また、テキストは本委員会からのホームページからもダウンロードできます。昨今、厳しい経済情勢の中この事業に賛同する企業からの寄付でこの事業が継続でき今日に至っております。この委員会の検定選考委員長を2014年(平成26年)から受けており、これまでに2,600名の方々に受検して頂き、受検合格者には委員長名で認定証を発行しております。

最後に青森県立保健大学副学長から弘前学院大学学長に就任することができたのは学校法人弘前学院理事長・院長の阿保邦弘先生のお蔭であり、しかも17年という長きにわたって学長職を務めあげることができ心より感謝しております。ここには弘前学院大学学長時代の内容が多く掲載されており、弘前学院は古い歴史を持ち、そして弘前学院大学は全国で700以上ある私立大学の一つであります。地方の私立大学であるがゆえ解決しなければならない問題が山積しております。しかし、その地方で信頼される教育機関であれば道は開かれるであろうし、これからは学外からその様子を拝見し、学外からエールを送ることにあります。



# 謎の「砂ワニ」制作グループが表彰 町おこしの為に行った サンドアート

社会福祉学部4年 佐藤 旭

私がサンドアートでワニを作ったきっかけは町おこしの為です。初めは地元の人々に「町おこしのなごとしてみたくな」と誘われ、それを受け私も町おこしに興味をわき、友人6人で町おこしをする事にしました。

具体的には町おこしのために何をすれば良いのかと考えた時に、私たちはお金もそこまでの人脈も無かったためお金をかけずに人を集めることを考えました。すると友人の一人から鰐ヶ沢には砂浜があるからサンドアートはどうかという提案がありました。ワニは作りやすいという理由で創作することになりました。

初めは2〜3メートルのワニを想定して作っていたのですが完成した頃には5〜6メートルになっていました。自分なりに結構積み上げたと感じてもほとんど積みあがっていない事が本当に辛く感じました。また、積み上げた砂の強度を上げるために海水をくんで来て積み上げた砂にかける作業があるのですが、途方もなく何度も心が折れそうになりました。整形に関しては6人の内の一人にとっても得意な友人がいたため、リアルに仕上げることが出来ました。

そのリアルさに反響があり、メディアにも取り上げられて、一時的にはあるものの本来の目的である鰐ヶ沢に人を呼ぶことに成功したためとても嬉しく思います。またこの創作について、私たちは練習のつもりで作っていたため当時はとても驚いていた事を覚えています。この後に作った1体目のワニより大きい10メートルほどのワニを倍のように作った時も反響をいただくことが出来、鰐ヶ沢



## 「認知症サポーター養成講座」を受講して

看護学部 看護学科1年 松橋 愛

町長の粋な計らいにより表彰を受けることが出来ました。これらのことは、町おこしをしてみようという提案してくれた地元の友人、私たちの創作を見に来てくださった方々、そして鰐ヶ沢町長には感謝の言葉しかありません。これからも出来るだけ鰐ヶ沢町を盛り上げていきたいです。

今年コロナウイルスの影響で学祭が中止となりました。そんな中で毎年学祭で行っていた「認知症サポーター養成講座」はなんと開催したいという思いがあり、クラス委員として企画・運営をさせていただきました。

現在、日本は超高齢社会となり、認知症というものが社会の重要課題となっています。また、認知症は誰にでも起こりうるため、人事ではありません。そのため本講座を受けることで、認知症についての正しい知識と関わり方を学び、サポーターとして地域に貢献することが出来ます。

## 「認知症サポーター養成講座」の企画・運営を通して

看護学部 看護学科2年 小林 玲

認知症の方に安心して地域で暮らしてもらうために、このサポーターを増やしたいという思いがあり、昨年の反省点から、講座を受講する人を増やすにはどうしたらよいかについて協議し、対策を考えました。そうしてたどり着いたのが、講座の趣旨や受講ポイントを記した用紙を配り、学生一人一人に参加希望をとることでした。それによって、講座内容も漏れなく伝わり、多くの人が参加してもらえたのではないかと考えました。結果、昨年より倍の学生に参加していただき、サポーターを増やすことが出来ました。このサポ

今回の講座では、一番辛く、苦しいのは認知症になった本人だということを学びました。周りにはいる人も、負担が増えて大変になるかもしれません。しかし、患者本人が一番辛く、苦しんでいることをしっかりと理解し、支えることが大切だと強く思いました。また、本人の意思

ターは、特別なことをする人ではありませんが、身近で困っている認知症の人やその家族を少しでも理解できる人として、地域に貢献していきます。

本来は、この講座を受講しなくても、認知症や高齢者に対する理解はしっかりとっておきたいものです。しかし、現状は理解がないために、身体的・精神的苦痛を与えていることが多いです。理解を深めるためにも、このような講座は必要であるため、講座を受講して認知症について考えるきっかけとしてほしいです。講座を受けると、認知症への間違った考え方も直すことができ、すぐに実践できる内容が多くあります。今後も、受講の証である「オレンジリング」を身に付けている人が増えていくことを願います。

を最優先するためには、小さな変化に気付いて早期受診・早期発見することが重要です。「どうせ治らないから」という受診しないことを選択するのは、今後のことを考えて自分の意思を決定するためにも受診は大切だと思います。

### 吉岡利忠学長先生の最終講義のお知らせ

日時：3月5日(金) 午前10時から  
場所：大学1号館4F大講義室  
演題：「路、ひとすじ」

### 2020年度 弘前学院大学学位記授与式

文学部	第47回
社会福祉学部	第19回
看護学部	第13回
大学院社会福祉学研究科修士課程	第17回
大学院文学研究科修士課程	第15回

◇日時：2021年3月13日(土) 午前10時～  
◇場所：弘前学院大学体育館

### 卒業記念礼拝

◇日時：2021年3月12日(金) 午前10時～  
◇場所：体育館  
\*礼拝終了後、体育館において学位記授与式のリハーサルを行う。

### 株式会社アルク様のあおぎんSDGs私募債「未来の創造」発行に係る寄贈品贈呈式

学長 吉岡 利忠

2021(令和3)年1月12日(火)、本学1号館2階第一会議室にて、「株式会社アルク様のあおぎんSDGs私募債「未来の創造」発行に係る寄贈品贈呈式」が行われ、オンライン授業用機器を寄贈いただきました。

この度の贈呈式は、株式会社アルク様があおぎんSDGs私募債「未来の創造」を発行に伴い発行額の一部を自治体や学校などに金を補助する制度を活用していただき寄贈していただきました。

代表取締役の小山内様は、毎年、本学で開催している「ヒロガク

2021(令和3)年1月12日(火)、本学1号館2階第一会議室にて、「株式会社アルク様のあおぎんSDGs私募債「未来の創造」発行に係る寄贈品贈呈式」が行われ、オンライン授業用機器を寄贈いただきました。

教養講話の講師を7年前から引き受けてくださり、その縁から新型コロナウイルスの影響で対面学習がままならない学生の学校教育の一助となればと寄贈をしていただきました。